



深川杜協だより

ふかわ

第 65 号

2025.9.1

絵は河野香代美さん(深川1丁目)

■編集発行 深川地区社会福祉協議会広報部会

令和7年7月19日(土)に、フジグラン高陽ふれあい広場において第28回高陽絆まつりが催されました。
写真は、オープニングセレモニーとして披露された広島文教大学附属高等学校和太鼓部「葵」の皆さんによる和太鼓演奏の風景です。元氣いっぱいで大変盛り上がりしました。



記憶と認知症予防

NHKの「あさイチ」という番組で、認知症予防について放映していました。運動をしろ、身近な人とのコミュニケーションを是非積極的に。脳トレをして認知予備脳を鍛えなさい。認知予備脳というのは、認知機能を維持するための予備の力と説明していました。昔の記憶を思い出してお互いに話してみるのもいいそうです。

先日、知人に「自分の記憶の中で一番昔の記憶は何？」と聞きました。帰ってきた言葉は次のようなことでした。「3歳の頃だったか、病氣にかかって母に負ぶってもらって医者に行った。そこで液体の肝油を飲まされたことを覚えている。それと母の背中で見えた母のほくろ。」

自分の中の最初の記憶。曾祖母の枕元に正座をして顔を覗き込んでいた自分。病床に伏せていた曾祖母がそっと膝に手を置いてくれた。4歳の頃のただそれだけの記憶。幼少の頃の脈絡のない記憶と思っていることが自分の中で脚色され、着色されて残っているのだしょう。

ある大先輩知人の話。「5歳の時、3歳の弟と小川で遊んでいた。弟がおぼれて川下に流された。夢中で母親を呼びに走って走って。弟は帰らなかった。」

悲しい記憶。鮮烈な記憶。なんでもない記憶。人はそれぞれ忘れられない記憶を背負って生きているものなのですね。

深川地区社会福祉協議会

会長 山口悦朗

「ふれあいセンターふかわ」を

さらに前に進めるために

「ぬくぬく」においでください

「ふれあいセンターふかわ」（地区社協活動拠点）を平成30年に高陽公民館内に開設して7年が経ちました。はじめは週に一度、開いていましたが、令和5年より水、金の週2回、そしてスタッフも各回2名にふやして現在に至っています。大きな目的は、住民の皆さんがつながり合い、地域での様々な困りごとを誰もが気軽に相談でき、その解決のために関係機関へつなぎ、いろんな課題を解決していける拠点でありたいということです。

さて、今年度は活動拠点の「目標」をさらに進めるために、次のように計画を立てています。月に1回、各月最終金曜日に公民館の和室で、住民同士が交流できる場を作りました。（10:00～12:30）子育て中の方も高齢者の方も一緒に楽しい時間を過ごしましょう。多世代交流オープンスペース「ぬくぬく」と名づけました。9月以降の計画は次の通りです。各回で専門の方にもおいていただき、気軽に話ができる会にしたいなと思います。

月 日	内 容
9月26日（金）	作って、遊んでおしゃべりしよう。（どんな工作かな？）
10月31日（金）	にこにこ栄養・エネルギー相談。管理栄養士・薬剤師に相談しませんか
11月28日（金）	笑顔つなぐ住まい相談会～気になるあれこれ、おしゃべりしませんか？
12月19日（金）	よく揚がる凧づくり！～くる年への「希望の凧」天高く舞い上がれ！～
1月30日（金）	社協で遊ぼう～未就学児さん、いらっしやい～
2月27日（金）	あなたの健康の秘訣、お喋りしませんか？
3月13日（金）	あなたの肌年齢、測っておしゃべりしませんか？

令和7年度「敬老会行事」について

今年度も敬老会行事として、戸別訪問で祝い品をお届けさせていただきます。

これからもお元気で過ごされますよう祈念申し上げます。

お祝い品対象の方

※ 令和7年6月30日現在で77歳以上の方

なお、令和8年度の敬老会行事は、諸経費の問題等から内容を検討中です。

収入の部

○ 繰越金	123,414
○ 助成金収入	
地区社協運営費（まちづくり協議会）	130,000
共同募金実績割金	139,740
福祉の町づくり総合推進事業	150,000
深川地区自治会連合会	100,000
広報紙助成金	30,000
活動拠点整備事業	15,000
活動拠点活性化支援事業	170,000
○ 寄付金収入	240,000
○ 拠出金（定期預金解約）	1,010,206
○ 雑収入（預金利息）	130
収入合計	2,108,490

支出の部

○ 会費（区社協会費）	99,720
○ 事務費	240,000
○ 会議費	30,000
○ 広報費	125,000
○ 福祉事業費	
福祉の町づくり総合推進事業	220,000
地区社協自主事業（敬老会等）	820,000
○ 助成金	150,000
（女性会、福寿会、青少協、体協、子ども会）	
○ 予備費	423,770
支出合計	2,108,490

令和7年度予算
深川地区社会福祉協議会

高陽地域・白木地域

「活性化プラン」推進協議会に参加して

令和6年7月 高陽地域・白木地域において、JR芸備線を軸とした両地域の活性化を図るため、広島市地域活性推進課から「地域の将来像」や「地域像を実現するための取組」が発信されました。それを受けて両地域の住民が主体となって話し合う場（ワークショップ）を計7回開催し、活性化プランとしてまとめました。令和7年



6月9日 白木地域4プロジェクト・高陽地域3プロジェクトの代表者が松井市長に対して、両地域に於ける今後のまちづくりに対する決意を表明しました。

白木地域においては ①鉄道「X」(エックス) ②白木自然発見 ③里N・W在(リニューアル) ④#白木町広報課の4プロジェクト、高陽地域においては ①KOYO BIG Fes ②深川地区の活性化プロジェクト (深川地区のまちづくりプランを含む)

③みんなで使おう芸備線!!の3プロジェクトを発表してまいりました。

ここでは高陽地域の中のわれわれ深川地区の活性化についての内容を説明します。

深川地区の活性化プロジェクトとしては ①高陽体育館の建替えにともなう跡地を中深川駅利用者のためを含めた駐車場へ・移転する体育館は避難所を含めた公共施設を加えた建物に、②県道37号線の改良に伴う中深川駅の複線化 ③下深川駅前の企業跡地をロータリー化してバスを駅前に侵入させ県道70号線の渋滞を解消させるとともにバスの定時運行化を図る。さらに、避難所施設の併設や公園の設置などを提案いたしました。

今後ワークショップを開催し、早期実現を目指して参ります。



深川地区自治会連合会 会長 福岡 壽

深川地区社協役員人事のお知らせ

(令和7年7月)

新任理事の紹介

岡崎 千穂 深川学区子ども会育成協議会会長
大倉 邦裕 中深川福寿会会長・学区老連会長

【敬称略】

なお、この度退任されました荒川忠臣様・増阪喜久美様には永い間ご苦勞様でございました。今後とも社協の活動にご協力賜りますようよろしくお願いいたします。



愛のともしび

深川地区社会福祉協議会に対し、次の方々から香典返し他のご厚志をお寄せいただきました。皆様の善意に厚くお礼申し上げます。

(令和7年一月～六月)

蔵本 明 (深川七丁目)

清水 透 (深川三丁目)

中村 直美 (深川七丁目)

大石 克博 (深川三丁目)

(受付順 敬称略)

お寄せいただいた募金は深川地区社会福祉事業の活動に役立てさせて頂いております。

【深川地区社会福祉協議会】

☎ 824 ト 8501

「深川あんしんネットワーク」の見守り活動が始まりました

深川地区社協では、昨年9月より高齢者の方々が地域で安心して暮らせるよう、地域全体で見守り支えあう制度として、関係団体（民生委員、主任児童委員、福祉委員、女性会、福寿会、自治会）の方々を中心にした見守り活動を開始しています。

この制度は、深川にお住いの65歳以上の方が対象で、ともに支えあう地域社会を目指すことを目的にしており、すでに150人余りの方から申し込みをいただき、関係団体の方による日常生活の中での「あいさつ」や気軽な「声かけ」を中心とした見守りや、「何日も電気がつかない」とか「新聞がたまっている」など心配な様子がある場合は、あらかじめ登録されている連絡先に連絡するなどの安否確認を実施しています。

登録された方の個人情報には守秘義務がありますので、ご安心ください。

この事務局は、高陽・亀崎・落合地域包括支援センターが行い、登録された方に対し、年に一回、生活上の不安・困りごとなどの相談連絡を行い、必要に応じ地域医療機関や介護機関への「つなぎ」を行うこととしています。

今後、同ネットワークの趣旨にご理解、賛同された方は、深川地区社協又は関係団体の担当者に連絡していただければ登録用紙などをお届け致します。



民生委員・児童委員代表 林 孝治

ふかわの昔ばなし

水無し

昔、陰地の南側の木の宗山と天神山の間に小さな谷川が流れていました。その谷川のほとりの数軒の農家が谷川の水を引いた小さな水田に稲を作り、山裾の畑であわやきびを育てて生活をしていました。ある暑い夏の昼下がり、汗で汚れ、裾のすり切れた法衣をまとい見るからにみすばらしい僧が峠を下りてきました。あまりにも喉がかわいた僧は一軒の農家の前に立ち「一杯の水をくださらんか」と頼みました。出てきた老婆は「わしの家にはあんたにあげる水は一杯もありやあせん」と答えると家の中に姿を消してしまいました。僧は「ほう、水は無いか。するとこの谷は水無しじゃのう」とつぶやきながら、とぼとぼと下の方へ去って行きました。

それからというもの、この谷は水が一滴も出なくなつたといひます。そして、土地の人々はこの谷を「水無し」と呼ぶようになりました。

しかし、平素は水が一滴もない谷ですが、梅雨の時期に雨が降り続くと、どこからともなく水がどつと流れ出て、下の県道や用水路を小石で覆うほどです。土地の人は、この水を「弘法水」または「水無し水」と呼んでいます。あの時の旅の僧こそ、弘法大師であつたといひます。